



開館5周年記念 特別展
Fifth Anniversary Special Exhibition

THE 岩槻 の 人形史

THE
Iwatsuki Ningyo
History

受け継がれし人形、ここに見参！



2025 10 | 4 | 11 | 30 日



岩槻人形博物館
IWATSUKI NINGYO MUSEUM

休館日＝月曜日 ※10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、24日(月・休)は開館

開館時間＝午前9時～午後5時 ※入館は閉館時刻の30分前まで

観覧料＝一般:300円(200円)／高校生・大学生・65歳以上:150円(100円)／小学生・中学生:100円(50円)

※()内は20名以上の団体料金。 ※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。 【主催】さいたま市岩槻人形博物館

◎「着物で岩槻」割引：本展会期中、着物で岩槻人形博物館に来館すると、観覧料無料。

1. 伝統的工芸品 江戸木目込人形 寿々喜雛(部分) 平成時代 人形の東玉蔵／2. 伝統的工芸品 江戸木目込人形 初音 平成時代 有松人形工房蔵
3. 埼玉県指定文化財 浄国寺日燈 江戸時代 浄国寺蔵／4. 親王雛 平成時代 宝玉蔵／5. 伝統的工芸品 江戸木目込人形 三番叟 平成時代 二代目石川源平蔵
6. 天保の人形(人形神奥) さいたま市岩槻区栄町自治会蔵／7. 岩槻町雛人形組合旗 昭和2年(1927) 岩槻人形協同組合蔵

〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町 6-1-1
Tel. 048-749-0222 Fax. 048-749-0225
<https://ningyo-muse.jp/>

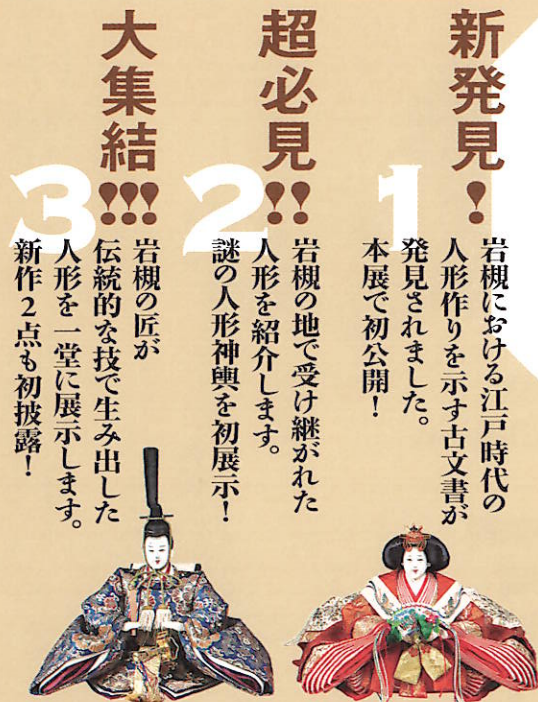


令和7年度地域ゆかりの文化資産を
活用した展覧会支援事業



THE
岩槻
の
人形史

日本有数の人形産地である〃人形のまち岩槻〃。高度経済成長期には300軒近い工房と問屋が軒を連ね、日本の人形文化を支えてきました。江戸時代、岩槻藩の城下町であり、日光御成道の宿場町であった岩槻は、どのような足跡を辿り、近代以降、日本を代表する〃人形のまち〃として発展を遂げたのでしょうか。本展は、さいたま市岩槻人形博物館の開館5周年と岩槻区誕生20周年を記念し、岩槻の人形史を紹介する初めての展覧会です。人形のまち岩槻の歴史を掘り起こし、岩槻で生まれた人形の魅力をお届けします！



伝統的工芸品 岩槻人形 飛鳥雛 令和時代 飯塚人形蔵

埼玉県指定文化財 螺鈿鞍 阿部重次奉納 江戸時代 久伊豆神社蔵
埼玉県立歴史と民俗の博物館保管

湖雲寺跡遺跡出土土製人形 狛抱童子 享和2年(1802)頃 港区立郷土歴史館蔵



雛人形十五人揃 昭和時代 人形の東玉蔵

覧人形屋老 郎の請求書
さいたま市アーカスセンター蔵 幕末維新期さいたま市指定文化財
岩槻城井侍屋敷城下町図絵検図
江戸時代中期 さいたま市立博物館蔵

知ろう、さいたまの伝統産業。盆美でも特別展を開催！

大宮盆栽村100周年記念特別展

「緑のフロンティアー大宮盆栽村100年」

10月3日(金)～12月10日(水) ※毎週木曜日休館

会場:さいたま市大宮盆栽美術館

※詳細は同館ホームページをご覧ください。

スタンプラリーで岩槻を楽しもう！ ※詳細は当館ホームページをご覧ください。

10月4日(土)～11月30日(日)

アプリを使って岩槻の観光スポットを巡ると達成ポイントがもらえます。

●常設展示情報

展示室1「埼玉の人形作り」と、所蔵品の様々な人形を紹介する展示室2「コレクション展示 日本の人形」があります。展示室2のウェルカムケースには、名品「御所人形 鶏合」が約2年ぶりに登場！他にも、開館5周年記念コレクションカードの絵柄になっている人形も一部展示中です。お見逃しなく！

●次回展覧会のご案内

特別公開「平田郷陽の人形」

2025年12月12日(金)

～2026年1月12日(月・祝)

人形の分野ではじめて重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された平田郷陽(1903～1981)。その珠玉の3点を特別公開します。〔矢の根〕平田郷陽 昭和17年(1942) さいたま市岩槻人形博物館蔵

●次回展覧会のご案内

企画展「ミニチュア×雛祭り(仮)」

2026年1月24日(土)～3月22日(日)

江戸時代後期には、大型の雛ではなくミニチュアの芥子雛や雛道具が誕生します。江戸や明治のミニチュアが生み出す極小美の世界をお届けします。

紫糧象牙細工師絵雛道具 江戸時代 さいたま市岩槻人形博物館蔵



〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1

Tel. 048-749-0222 Fax. 048-749-0225

https://ningyo-muse.jp/

Instagramで情報発信しています

THE Iwatsuki Ningyo History

関連イベント

IWATSUKI NINGYO EXPO

10月4日(土)～11月30日(日)

会場:当館ロビー・会議室

協力:岩槻人形協同組合、NPO法人岩槻・人形文化サポーターズ 等

現代の岩槻で作られている人形を展示し、岩槻の職人たちによる実演・ワークショップ、和の文化を楽しむことができるイベントを開催します。11月1日(土)～9日(日)は、大阪・関西万博のさいたま市出展会場に出品された人形等を展示します。

※詳細は当館ホームページ及びイベントチラシをご覧ください。

スライドトーク「深掘り! 岩槻の人形」

① 謎の人形神輿 ② 「雛屋」のはじまり

① 10月26日(日) ② 11月16日(日)

いずれも午後2時～(60分程度)

講師:① 林進一郎(当館学芸員)

② 岩田明日香(当館学芸員)

会場:当館会議室/定員:30名 ※申込不要、参加無料。

学芸員による展示解説

10月18日(土)、11月9日(日)、24日(月・休)

いずれも午後2時～(30分程度) ※申込不要、要観覧券。



〔交通案内〕【電車をご利用の場合】東武アーバンパークライン(野田線)「岩槻駅」から徒歩約10分 ※大宮駅から岩槻駅までの所要時間は約12分です。

【車をご利用の場合】東北自動車道「岩槻IC」出口から約5.5km、車で約12分

※駐車場は、普通自動車用28台、車いす用2台、乗降スペースは、大型バス用2台分があります。なお、にぎわい交流館いづつきとの共用です。

開館日カレンダー 2025年10月～2026年3月までの予定

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1★
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15★	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

休館日 開館5周年記念 特別展「THE 岩槻の人形史—受け継がれし人形、ここに見参!—」 企画展「ミニチュア × 雛祭り(仮)」
 特別公開「平田郷陽の人形」 展示室1・2(常設展)のみ開室 常設展展示解説 午後2時～※申込不要、要観覧券。★ワークショップ

※特別展開連イベントは、「イベント Information」をご覧ください。
 ※特別展及び企画展会期中、「着物で岩槻」を開催します。着物で岩槻人形博物館に来館すると、観覧料が無料になります。
 ※12月16日は臨時休館、3月2日は臨時開館。

これからの展覧会

特別公開「平田郷陽の人形」

2025年12月12日(金)
 —2026年1月12日(月・祝)

人形の分野ではじめて重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された平田郷陽(1903～1981)。その珠玉の3点を特別公開します。



「矢の根」平田郷陽 昭和17年(1942)

企画展「ミニチュア × 雛祭り(仮)」

2026年1月24日(土)―3月22日(日)

江戸時代に開花した雛祭り。後期には、大型の雛ではなくミニチュアの芥子雛や雛道具が誕生します。精巧な技で創り出されたその造形美には、極限まで小型化しようとした職人たちの粋なこだわりが垣間見られます。江戸や明治のミニチュアが生み出す極小美の世界をお届けします。



紫檀象牙細工蒔絵雛道具 江戸時代

【にぎわい交流館いわつき】

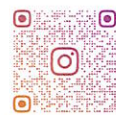
博物館に隣接する、にぎわい交流館いわつきでは、体験講座やイベント、カフェ・ショップでの食事や買物をお楽しみいただけます。(Tel.048-757-2981 / Fax.048-793-4074)

※イベント等の詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://www.nigiwai-koryukan.jp/>



■ 基本情報
【開館時間】 午前9時～午後5時
 ※入館は閉館時刻の30分前まで
【休館日】 月曜日(休日の場合は開館)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 ※臨時に休館・開館することがあります。
【観覧料】 一般:300円(団体:200円)
 高校生・大学生・65歳以上:150円(団体:100円)
 小学生・中学生:100円(団体:50円)
 ※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。
 ※団体は20名以上。
 ※展覧会により観覧料が異なる場合があります。
 ※掲載資料のうち、特に表記がないものはさいたま市岩槻人形博物館蔵です。

インスタグラムで情報発信しています!



〒339-0057
 埼玉県さいたま市岩槻区本町6-1-1
 Tel.048-749-0222 Fax. 048-749-0225
<https://ningyo-muse.jp/>
 IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS Vol.10
 2025年9月発行 編集・発行:さいたま市岩槻人形博物館

※このリーフレットは20,000部作成し、1部あたりの印刷経費は約19円です。

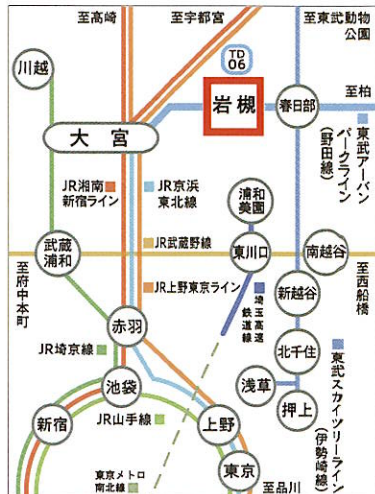


◎交通案内

【電車をご利用の場合】 東武アーバンパークライン(野田線)「岩槻駅」から徒歩約10分
 ※大宮から岩槻駅までの所要時間は約12分です。

【車をご利用の場合】 東北自動車道「岩槻IC」出口から約5.5km、車で約12分

※駐車場は、普通自動車用28台、車いす用2台、乗降スペースは、大型バス用2台分があります。なお、にぎわい交流館いわつきとの共用です。



IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS

Vol. 10



天保の人形(人形神輿) さいたま市岩槻区栄町自治会蔵

特集

開館5周年記念 特別展 「THE 岩槻の人形史—受け継がれし人形、ここに見参!—」

Contents

開館5周年記念 特別展「THE 岩槻の人形史—受け継がれし人形、ここに見参!—」／常設展 Close-up／
 イベント Information／学芸員の研究ノート第10回「芸術家をも唸らせた、平田郷陽のマネキン人形(生人形)」／
 開館日カレンダー／これからの展覧会



岩槻人形博物館
 IWATSUKI NINGYO MUSEUM

「THE 岩槻の人形史―受け継がれし人形、ここに見参!―」

2025年10月4日(土)―11月30日(日)／展示室3

日本有数の人形産地である“人形のまち 岩槻”。高度経済成長期には300軒近い工房と問屋が軒を連ね、日本の人形文化を支えてきました。江戸時代、岩槻藩の城下町であり日光御成道の宿場町であった岩槻は、どのような足跡を辿り、近代以降、日本を代表する“人形のまち”として発展を遂げたのでしょうか。

本展は、さいたま市岩槻人形博物館の開館5周年と岩槻区誕生20周年を記念し、岩槻の人形史を紹介する初めての展覧会です。“人形のまち 岩槻”の歴史を掘り起こし、岩槻で生まれた人形の魅力をお届けします!

3つの見どころ

- ①新発見!! 岩槻における江戸時代の人形作りを示す古文書が発見されました。本展で初公開!
- ②超必見!! 岩槻の地で受け継がれた人形を紹介します。謎の人形神輿を初展示!
- ③大集結!! 岩槻の匠が伝統的な技で生み出した人形を一堂に展示します。新作2点も初披露!

《休館日》 月曜日 ※10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、24日(月・休)は開館

《関連イベント》

- 1 スライドトーク「深掘り! 岩槻の人形」** ①謎の人形神輿、②「雛屋」のはじまり
日時: ①10月26日(日)、②11月16日(日) いずれも午後2時〜(60分程度)
講師: ①林進一郎(当館学芸員)、②岩田明日香(当館学芸員)
会場: 当館会議室／定員: 30名 ※申込不要、参加無料。
- 2 学芸員による展示解説**
日時: 10月18日(土)、11月9日(日)、24日(月・休) いずれも午後2時〜(30分程度)
※申込不要、要観覧券。
- 3 IWATSUKI NINGYO EXPO**
※詳細は「イベント Information」をご覧ください。

見どころ紹介 ぜび 3つ を見てください!

初公開・初展示・初披露! ―初づくしの人形史

本展は、岩槻の人形史を紹介する初めての展覧会! 地域の皆様のお力をお借りしながら準備を進め、盛りだくさんの内容になっています。そのなかから、3つの見どころを紹介します。

岩槻の人形史は江戸時代の資料が少なく、いつから人形作りが行われていたのか、実ははっきりわかっていませんでした。今回の特別展に向けた調査で、大宮宿の雛屋忠八と岩槻・渋江の人形屋荒次郎や加倉の恵比須屋清助が、幕末維新期に人形やパーツの取引をしていた文書を発見しました。この頃に岩槻で人形作りが行われていたことを示す貴重な資料で、本展で初公開します!

栄町自治会館(岩槻区本町)で保管されてきた「天保の人形」(表紙写真)にも注目です。中国風の衣装に軍配団扇を手にした堂々たる姿は、三国志で有名な軍師・諸葛亮(孔明)を思わせる佇まい。天保12年(1841)に作られたとも伝わりますが、いつ、誰が、何のために作ったのかは詳らかではありません。今回、人形を乗せていた神輿とともに初展示、その謎に迫ります!

また、岩槻に受け継がれた伝統的な技術で、匠たちが生み出した岩槻の人形も一堂に公開します。本展のために製作された伝統的工芸品「江戸木目込人形」「岩槻人形」は初披露です! このほか、岩槻の人形史解明のカギとなる資料や人形を多数展示します。どうぞお楽しみに。



天保の人形(人形神輿) 昭和55年(1980)撮影
さいたま市岩槻区栄町自治会蔵

常設展

Close-up

展示室2「コレクション展示 日本の人形」では、当館を代表する名品や季節にちなんだ作品を展示しています。今年は、常設展、展覧会を観覧された方に無料配布中の、開館5周年記念コレクションカード(無くなり次第終了)の絵柄になった人形も一部展示していますので、お見逃しなく!

こ しょう にんぎょう とりあわせ
御所人形 鶏合
江戸時代
展示室2
2025年9月30日(火)〜12月7日(日)

当館の名品の一つである「御所人形 鶏合」が約2年ぶりに登場します。鶏合は闘鶏ともいい、雄の鶏同士を闘わせる遊戯です。恵比寿(烏帽子)と、大黒(頭巾)に見立てられた童子が鶏を抱えて対峙し、中央の行司役の童子がその二人の呼吸を伺っています。毛植細工で精巧に作られたかわいらしい鶏にもご注目ください。



つち にんぎょう はな がさどり
土人形 花笠踊
江戸〜明治時代
展示室2
展示中〜2025年12月中旬(予定)

日本画家で人形玩具研究家の西澤笛畝(1889〜1965)の旧蔵品。笛畝は本作について、面貌・姿態・彩色のいずれも評価しており、名品として多くの著書で紹介しています。郷土玩具の素朴さのなかにも優美な趣が感じられる逸品です。開館5周年記念コレクションカードの絵柄にもなっています。



イベント

Information

■IWATSUKI NINGYO EXPOを開催します!

大阪・関西万博の盛り上がりを受けて、当館においても開館5周年記念特別展の会期中に、岩槻の人形を紹介し、日本文化を体験できるEXPO(イベント)を開催します。特別展の観覧とあわせてお楽しみください。

1 ロビー展示 岩槻の人形 推しの逸品
期間: 10月4日(土)〜11月30日(日)
内容: 岩槻の人形店で製作・販売されているイチオシの人形を3期に分けて紹介します。11月1日(土)〜9日(日)には、大阪・関西万博のさいたま市出展会場(9月18日〜21日)で出品された人形やパネルを展示します。

2 職人による製作実演
日時: ①10月5日(日)、②10月19日(日)、③11月8日(土)、④11月15日(土)
各日午後0時30分〜3時30分
内容: ①衣裳着胴、②若手職人、③桐塀頭、④木目込胴
岩槻で活躍中の職人が製作実演を行います。

3 ワークショップ・着装体験
会期中の土日祝日を中心に、ワークショップや着装体験も開催します。詳細は、当館ホームページ等をご覧ください。



ロビー展示 岩槻の人形
(過去の展示風景)



着装体験
(過去のイベント風景)

※内容は変更となる場合があります。

第10回 学芸員の研究ノート

芸術家をも唸らせた、平田郷陽のマネキン人形(生人形)

生人形とは人間そっくりに作られた等身大の人形で、江戸時代後期に見世物興行として始まりましたが、時代が下ると、その活用場は見世物小屋から、博覧会や百貨店へと移り変わってきました。生人形はいわゆるマネキン人形としてショーウィンドウに飾られたのです。

父から生人形の技術を習得した平田郷陽(1903〜1981、後の人間国宝)も、昭和時代初期には人形芸術運動に邁進する一方で、マネキン人形も手掛けていました。マネキン人形といえども、その作り方は生人形と同様です。頭は、桐材を彫り出した後、前後で二つに割り、中を空洞にして内側から眼を入れ、元通りに合わせます。毛髪は、羽二重の布に人毛を1本ずつ針で通し輪状に結んで植え、肌は、胡粉を幾重にも塗り重ねて質感を表現するなど、徹底してリアルさを追求しています。時には人気女優の似顔で作られることもあり、流行の衣装を着たリアルなマネキン人形は、消費者の購買意欲を刺激することにも一役買っていたのです。

こうした背景もあり、マネキン人形の製作技術の向上を目的と

して、コンテストも開催されました。昭和9年(1934)に銀座松坂屋で開かれた「マネキン人形競美会」には郷陽も出品しており、審査の結果、優秀の一等の推奨を受けました。辛口の審査が行われるなか、審査員の一人であった洋画家の藤田嗣治に、「あの人形だけは生きて居りますね」*と評価されるなど、郷陽の生人形が、芸術家をも唸らせる迫真性があったことがうかがえます。

郷陽の昭和時代初期の作品には、このような生人形の技術が応用された作品が多く見られます。12月12日(金)より開催する特別公開「平田郷陽の人形」でも一部展示する予定ですので、ぜひ実物をご覧ください。

(学芸員 蟹沢真弓)



※「銀座松坂屋『春の美装サロン』マネキン人形競美会審査座談会」『百貨店新聞』第166号 1934年4月25日、5面

マネキン人形の頭に彩色をする平田郷陽 昭和6年(1931)12月3日撮影